

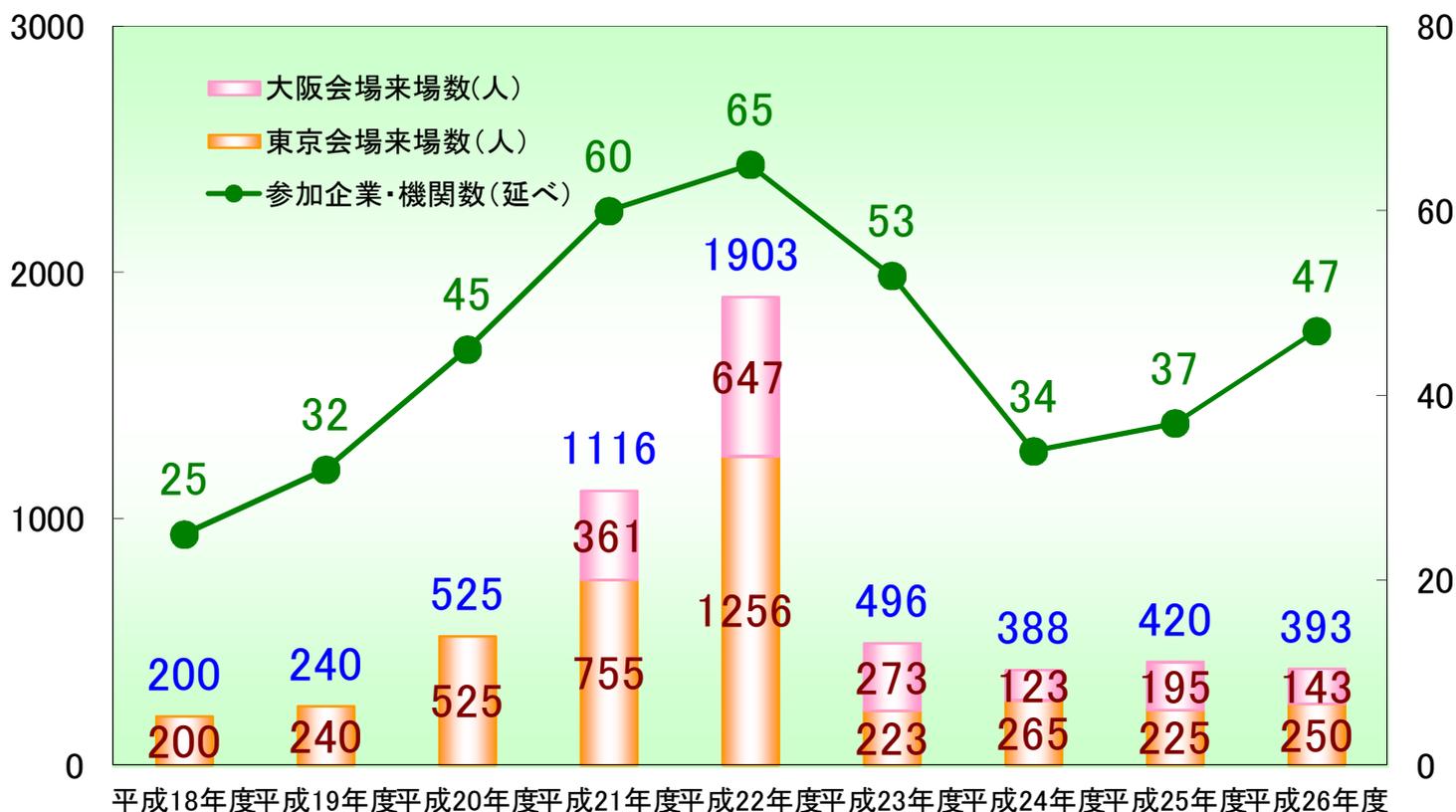
原子力産業セミナー2016 報告

(一社)日本原子力産業協会および関西原子力懇談会は、2016年卒の大学生(3年生)・大学院生(修士1年生)を主な対象に、原子力産業への理解促進・情報提供ならびに学生及び原子力産業に関わる企業・機関の就職・採用活動の支援を目的に、9回目となる合同企業説明会「原子力産業セミナー2016」を以下の通り開催いたしました。

1. 概要

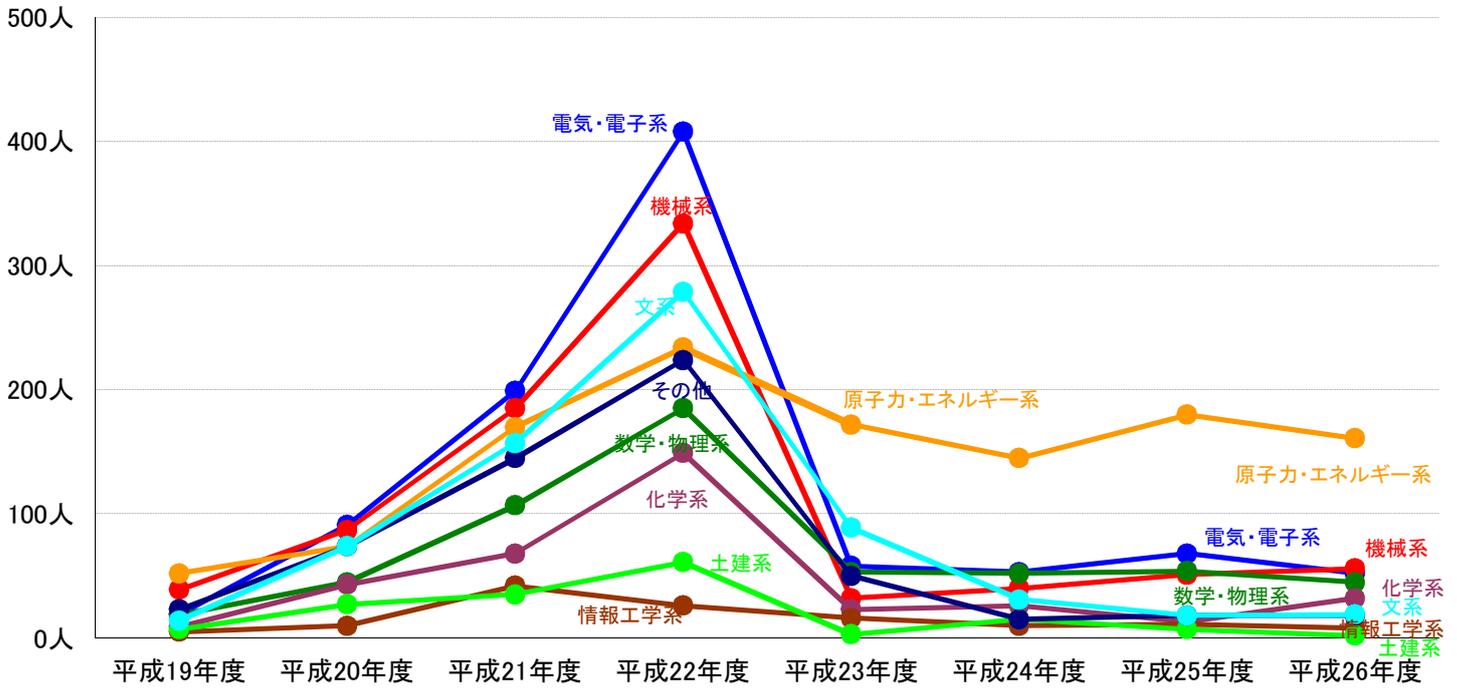
()内の数字は昨年度のものです。

	東京会場	大阪会場	
開催日	2015年3月17日(火)	2015年3月20日(金)	
開催場所	新宿エルタワー サンスカイルーム	新梅田研修センター 新館・本館Lホール	合計
来場学生数	250人(225人)	143人(195人)	393人(420人)
参加企業・ 機関数	26社(22社)	21社(15社)	47社(37社)



原子力産業セミナーの来場数および参加企業・機関数の推移

来場学生の学科別人数の経年変化
 (東京会場+大阪会場)



*大阪では平成21年度より原子力産業セミナーを開催。

原子力・エネルギー系の学生の来場者数は、昨年度に比べて微減しました。東京電力（株）福島第一原子力発電所事故以降、企業・機関からの採用ニーズの高い機械系、電気系、化学系などの学生の来場者数は依然として少ない（ほぼ横ばい）状況です。また、文系学生の来場も少ないままです。

参加企業・機関一覧

電力関連企業(五十音順)		東京会場	大阪会場
1	関西電力株式会社	○	○
2	中国電力株式会社		○
3	中部電力株式会社	○	○
4	電源開発株式会社(J-POWER)	○	○
5	東京電力株式会社	○	○
6	日本原燃株式会社	○	○
7	北陸電力株式会社	○	○
重電メーカー(五十音順)		東京会場	大阪会場
8	株式会社 IHI	○	○
9	株式会社東芝	○	○
10	株式会社日立製作所	○	○
11	三菱重工業株式会社	○	○
プラント・エンジニアリング企業等(五十音順)		東京会場	大阪会場
12	株式会社アトックス	○	○
13	岡野バルブ製造株式会社	○	○
14	関電プラント株式会社		○
15	株式会社クリハラント		○
16	原燃輸送株式会社	○	
17	株式会社千代田テクノル	○	○
18	株式会社テプコシステムズ	○	○
19	株式会社東京エネシス	○	
20	東京パワーテクノロジー株式会社	○	
21	東芝プラントシステム株式会社	○	
22	東電設計株式会社	○	
23	株式会社日本環境調査研究所	○	
24	株式会社日本製鋼所	○	
25	株式会社BWR運転訓練センター	○	
26	Hitz 日立造船株式会社		○
27	株式会社日立プラントコンストラクション	○	
公益・特殊・独立行政法人(五十音順)		東京会場	大阪会場
28	原子力規制委員会原子力規制庁	○	○
29	原子力発電環境整備機構	○	○
30	国立研究開発法人日本原子力研究開発機構	○	○
合計		26	21

2. 実施内容

① 学生へのプロモーション

早い段階で原子力産業を認知してもらうとともに、働く場としての魅力やあらゆる分野の若者が活躍できるフィールドが広がっていることなどを伝えるために、大手就職情報会社である(株)マイナビと連携し、プロモーションを展開しました。

具体的には、若手技術者・研究者インタビューのWEB動画(マイナビTV)(*1)の配信、東京と大阪で開催されたマイナビ主催の就活準備フェアに参加し、先輩社員が仕事のやりがい、原子力産業に興味を持った理由、今後の抱負などを紹介する講演会(参加学生 東京:60名・大阪:24名)を実施するなどして、原子力産業理解活動を行いました。

3月以降は、就職情報サイトのマイナビ2016(*2)への原子力産業研究コンテンツ「原子力産業特集」(*3)の掲載、マイナビよりの来場促進紙ダイレクトメール(DM)の発送(理系向け)、学生の自宅に送付する就職情報誌へのチラシ同封(理系向け)、大学就職課へのポスター送付、当協会・関西原子力懇談会と関係のある大学関係者に対し、学生への告知依頼などの活動を展開しました。

また、告知に使用したポスター(チラシ)には柔らかな雰囲気デザインの採用し、「文系大歓迎」を記載するなど、女子学生や文系を含めた多様な学生がセミナーへ来場しやすい環境作りに努めました。

*1 視聴回数(4月22日時点):1478件

*2 業界最大級の学生登録数と掲載企業を有する総合就職情報サイト。

*3 トップページビュー数(4月22日時点):4224件



就活準備フェアでの講演の様子



若手技術者・研究者インタビューのWEB動画



原子力産業セミナー2016 ポスターデザイン

②セミナー当日（イベント）

原子力産業セミナーの当日は、2016年卒の大学生・大学院を主な対象とした各企業・機関による（1）採用活動ブース（企業PRや採用活動の場として各企業・機関が自由に使用）の出展、（2）先輩社員・職員による講演会の開催、（3）展示コーナー（ポスター展示、放射線コラム配布など）、（4）コミュニケーション・エリア（参加企業・機関の担当者と学生が個別に話しをしたい時に、コミュニケーションをとるためのエリア）を設置しました。



（1）採用活動ブースエリア



（2）先輩社員・職員による講演会



（3）展示コーナー



（4）コミュニケーション・エリア

3. 後援・協賛

以下の通り、13団体・機関からの後援・協賛を頂きました。

後援：原子力委員会、文部科学省、経済産業省

協賛団体：公益社団法人応用物理学会、独立行政法人国立高等専門学校機構、一般社団法人電気学会、一般社団法人電子情報通信学会、公益社団法人土木学会、公益社団法人日本化学会、一般社団法人日本機械学会、一般社団法人日本原子力学会、一般社団法人日本建築学会、一般社団法人日本保健物理学会

4. 来場学生データ

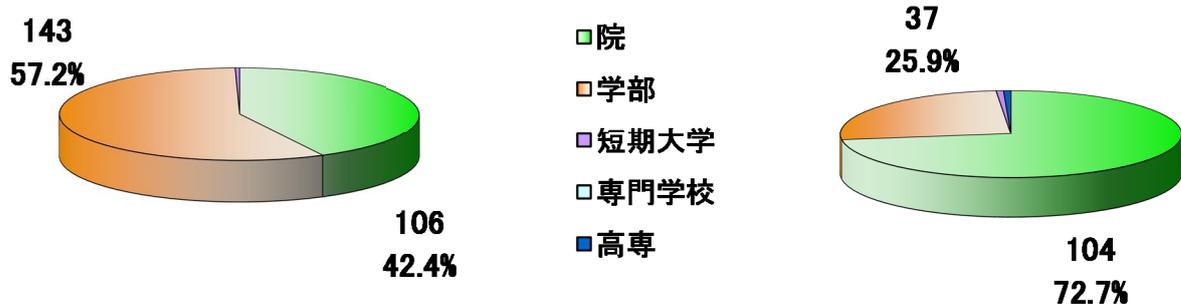
来場学生データは、学生がセミナー会場へ入場する際に提出する「受付票」の集計結果をまとめたものです

① 所属（学部・院の割合）

東京会場は、学部生の割合が高く、大阪会場は、院生の割合が高いです。

東京会場

大阪会場

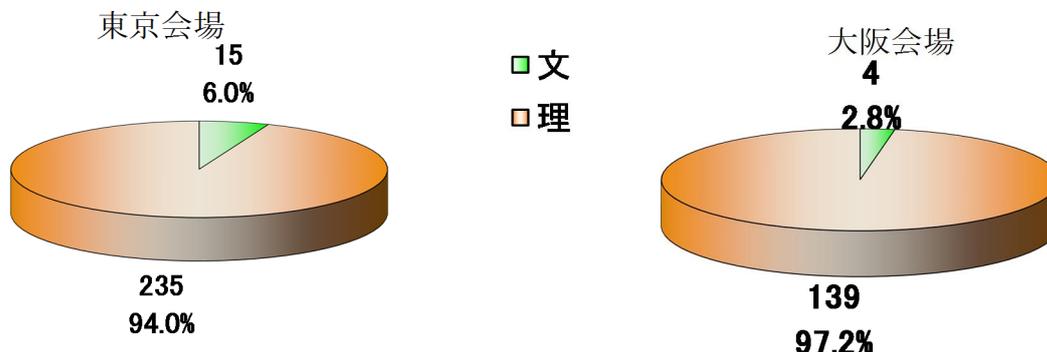


所属	東京会場		大阪会場	
	人数	割合	人数	割合
院※	106(122)	42.4%(54.2%)	104(109)	72.7%(55.9%)
学部	143(103)	57.2%(45.8%)	37(82)	25.9%(42.1%)
短期大学	1(0)	0.4%(0%)	1(0)	0.7%(0%)
専門学校	0(0)	0%(0%)	0(0)	0%(0%)
高専	0(0)	0%(0%)	1(4)	0.7%(2.1%)
合計	250(225)	100%(100%)	143(195)	100%(100%)

※マスター、ドクターを合算しております。
四捨五入の関係上、合計が100%にならない場合があります。
()内の数字は、昨年度のもので。

② 文理別割合

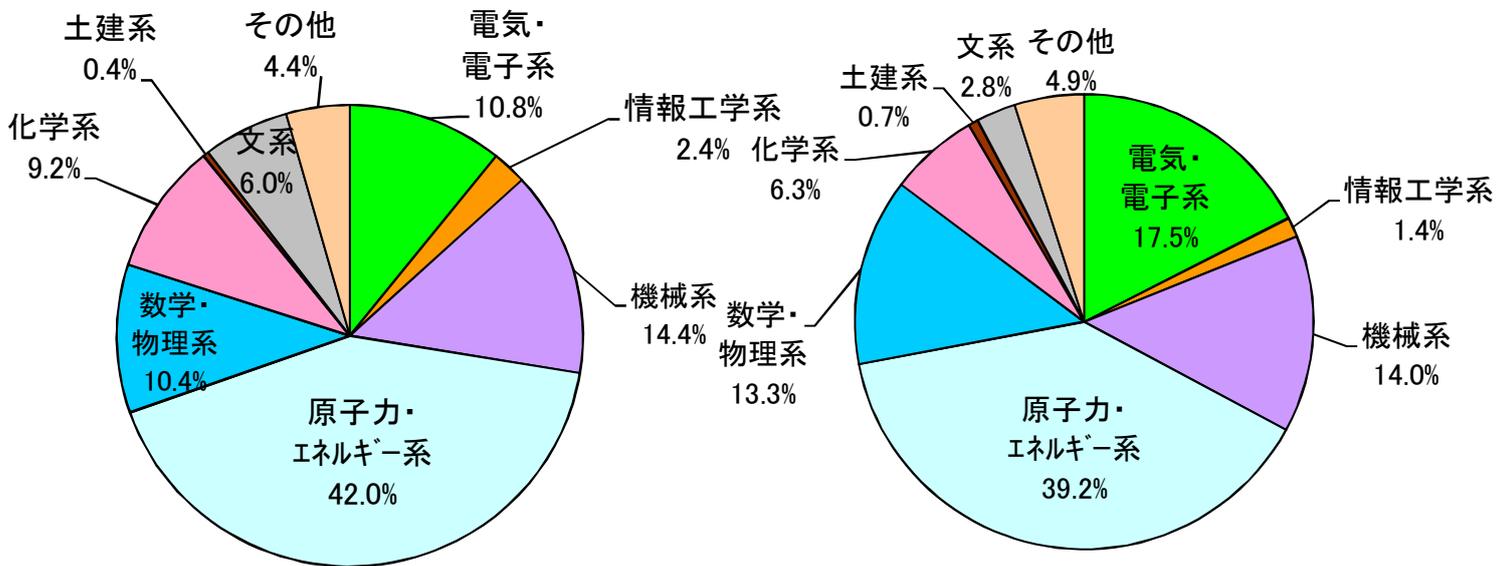
昨年度から、文理の割合は大きく変化していません。



来場者合計	東京会場		大阪会場	
	人数	割合	人数	割合
文	15(16)	6.0%(7.1%)	4(2)	2.8%(1.0%)
理	235(209)	94.0%(92.9%)	139(193)	97.2%(99.0%)
合計	250(225)	100%	143(195)	100%

③ 来場学生の学科別割合
東京会場

大阪会場



分野	東京会場		大阪会場	
	人数	割合	人数	割合
電気・電子系	27(21)	10.8%(9.3%)	25(47)	17.5%(24.1%)
情報工学系	6(3)	2.4%(1.3%)	2(8)	1.4%(4.1%)
機械系	36(25)	14.4%(11.1%)	20(26)	14.0%(13.3%)
原子力・エネルギー系	105(104)	42.0%(46.2%)	56(76)	39.2%(39.0%)
数学・物理系	26(34)	10.4%(15.1%)	19(20)	13.3%(10.3%)
化学系	23(10)	9.2%(4.4%)	9(3)	6.3%(1.5%)
土建系	1(4)	0.4%(1.8%)	1(3)	0.7%(1.5%)
文系	15(16)	6.0%(7.1%)	4(2)	2.8%(1.0%)
その他	11(8)	4.4%(3.6%)	7(10)	4.9%(5.1%)
合計	250(225)	100%	143(195)	100%

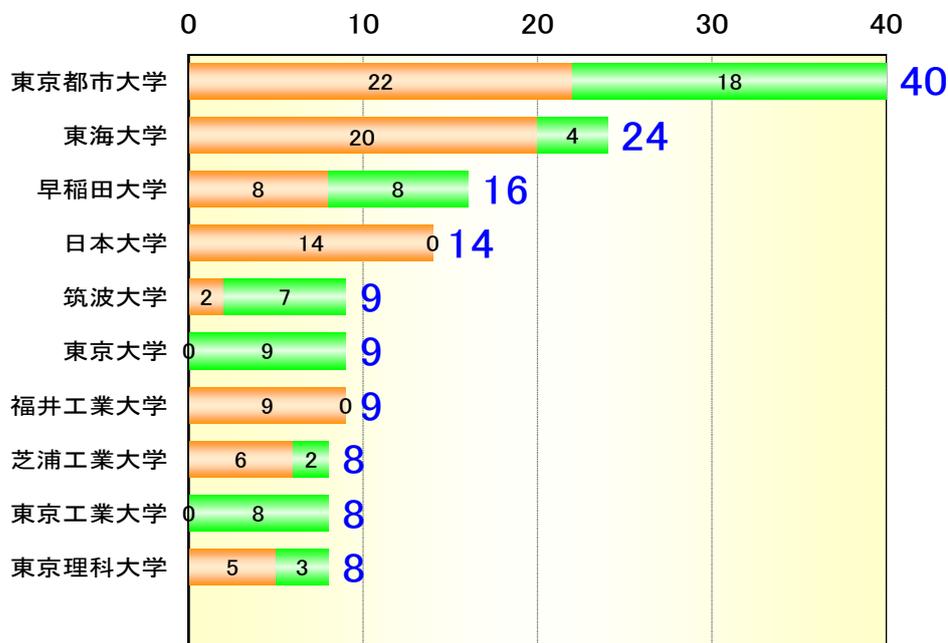
()内の数字は、昨年度のものです。

⑤大学別来場数

原子力・エネルギー系の学科(院)を有する大学が、大学別来場者数の上位に入っています。

(上位10校)

<東京会場>



<大阪会場>

■ 学部 ■ 院



(上位10校以外)

<東京会場>

長岡技術科学大学	7
中央大学	6
名古屋大学	6
九州大学	5
山梨大学	4
横浜国立大学	4
近畿大学	3
群馬大学	3
工学院大学	3
静岡大学	3
千葉工業大学	3
東京電機大学	3
日本工業大学	3
法政大学	3
明治大学	3
茨城大学	2
学習院大学	2

慶応義塾大学	2
城西大学	2
電気通信大学	2
東京海洋大学	2
東京農業大学	2
東京農工大学	2
東洋大学	2
福井大学	2
室蘭工業大学	2
青山学院大学	1
麻布大学	1
大妻女子大学	1
岡山大学	1
神奈川大学	1
神奈川工科	1
金沢大学	1
金沢工業大学	1

京都大学	1
京都府立大学	1
共立女子大学	1
埼玉大学	1
埼玉工業大学	1
上智大学	1
創価大学	1
拓殖大学	1
名古屋工業	1
八戸工業大学	1
浜松学院短期大学	1
一橋大学	1
北海道大学	1
北海道教育大学	1
立教大学	1
琉球大学	1

<大阪会場>

大阪工業大学	3
同志社大学	3
名古屋大学	3
関西大学	2
島根大学	2
東海大学	2
大阪市立大学	1
関西学院大学	1
京都工芸繊維大学	1
摂南大学	1
富山大学	1

名古屋工業大学	1
京都医療科学大学	1
京都女子大学	1
産業技術大学	1
東京大学	1
東京海洋大学	1
奈良先端科学技術	1
北海道大学	1
三重大学	1
和歌山高専	1

⑥来場学生データのまとめ

- ・セミナー全体の来場者数は、前回に比べて微減（約30名減）でした。
- ・東京会場・大阪会場とも、前回に引き続き、企業・機関からの採用ニーズの高い「機械・電気系」学生の来場者数は依然として少ない（ほぼ横ばい）状況です。化学系の学生は、昨年度に比べて、微増しました。
- ・文系学生の来場者数は、減少傾向のままです。

5. 総括・評価

- ・参加企業・機関数は前回に比べて増えました。福島第一原子力発電所事故以降、初めて東京電力が参加しました。企業の採用ニーズは、高まっていると考えられます。
- ・学生来場者数が微減しました。主に原子力・エネルギー系の学生が減ったことによります。原子力・エネルギー系の学生が減少した主な原因は、同時期に日本原子力学会が開催されたことと考えられます。一方、採用ニーズの高い機械系・電気系学生の来場者数は依然として少ない（ほぼ横ばい）です。また、原子力産業への理解促進という意味では、文系学生の来場が少ないのも問題です。
- ・機械系・電気系学生の来場者数が少ない要因としては、
 - ① 日本経団連の採用選考に関する指針により、採用活動の解禁が、12月から3月に後ろ倒しになり、学内イベントや他の就職説明会が同時期に集中したため。
 - ② 機械・電気系学生に対する企業の採用ニーズはもともと高く、景気の上向きによりさらにその傾向が強まったと思われる。就職先の選択肢が多く、原子力産業を就職先として選択する必要性が少ないため。
 - ③ 原子力産業が魅力的な産業と認識されていない。（就職先として敬遠されている。）
などが考えられます。
- ・今年度のセミナーでは、原子力産業で働く若手を活用するなど、積極的なプロモーションを展開しました。全国から様々な大学（84校）から学生が来場していることから、一定の効果はあったと考えられますが、依然として機械系・電気系・化学系などの学生来場が少なく、次年度以降も工夫して来場学生の増加に努める必要があります。
- ・原子力・エネルギー系学科を有しない大学の学生も来場していますので、セミナー開催の情報自体は多くの学生に届いていると考えられます。学生がセミナー会場まで足を運んでくれるには、原子力産業界が若者に将来の展望、やりがい、夢を効果的に発信していけるかが重要と考えられます。

6. 課題

福島第一原子力発電所事故以降、機械系・電気系・化学系などの参加学生が少なく、学生が原子力産業界を就職先として敬遠しているためと考えられ、大きな問題としてとらえています。このような状況が続くと、原子力産業の技術維持が難しくなり、国全体の損失にもつながりかねません。国の責任あるエネルギー政策策定、原子力発電の再稼働、着実な福島復興、安全性向上等を進め、将来の展望、やりがい、夢を若者に効果的に発信していく必要があります。

添付資料

添付資料 1. 来場学生の声（学生アンケートより抜粋）

添付資料 2. メディアにおける掲載実績

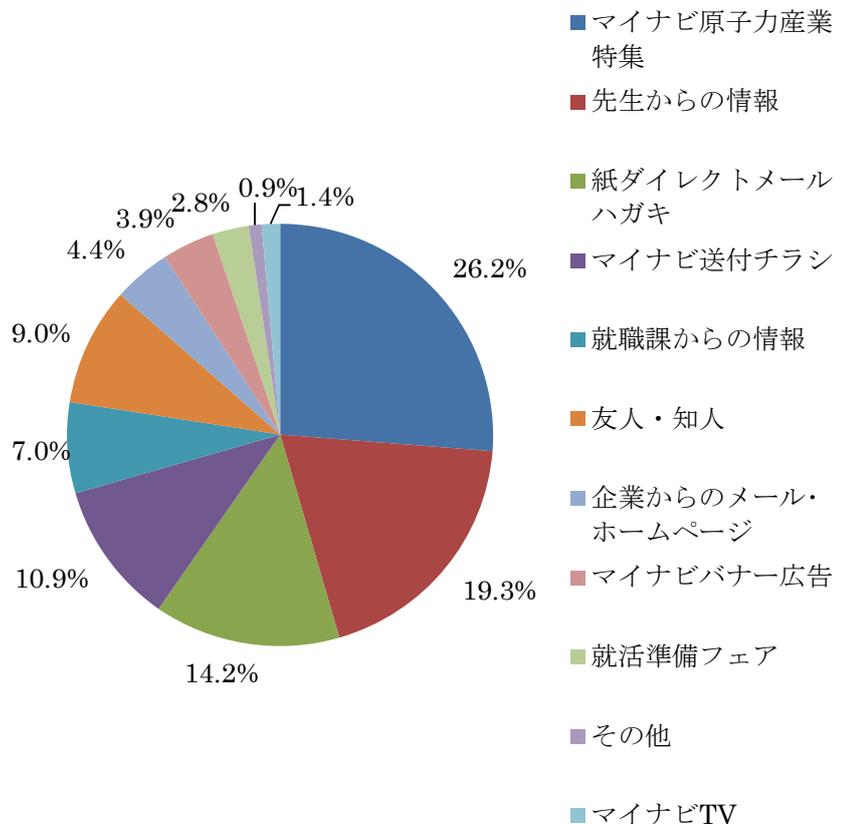
添付資料 1. 来場学生の声（アンケートより）

以下の来場学生の声は、入場時に学生が受付に提出するエントリーシートとは別に、当協会が独自に実施しましたアンケートよりの抜粋です。アンケートの提出は任意です。アンケートの回収率は、東京会場で約 56%、大阪会場で約 73%でした。東京会場と大阪会場での回答結果に傾向の違いは見られませんでしたので、データは両会場を合わせたものを掲載しました。

① 「原子力産業セミナー2016」をお知りになったきっかけは何ですか？」（複数回答可）

学生からは「マイナビ原子力産業特集」「先生からの情報」「紙ダイレクトメールハガキ」「マイナビ送付チラシ」の順であり、合計で 70.6%を占めています。原産協会は、マイナビの就活準備フェア（東京、大阪）に参加したが、今回 12 人参加頂いたことは、一定の効果はあったものと思われま

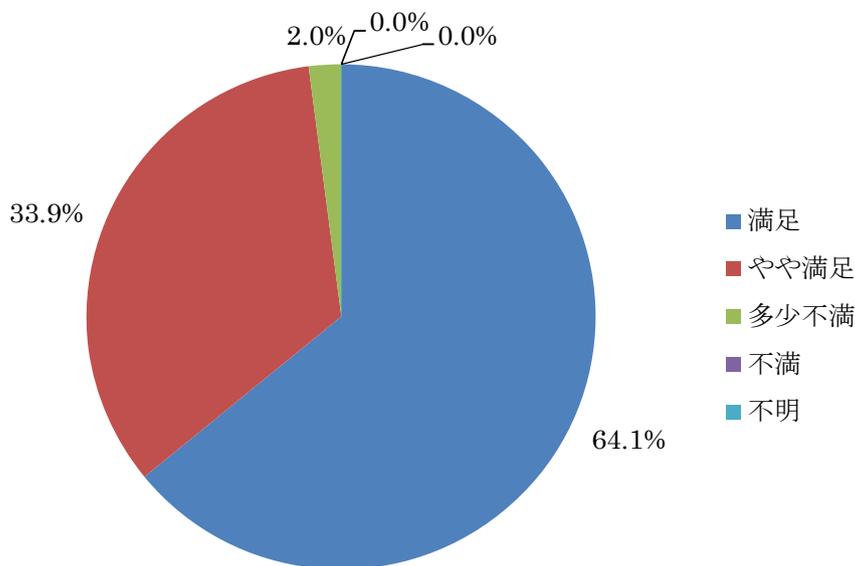
選択項目	回答数(割合)
マイナビ原子力産業特集	113(26.2%)
先生からの情報	83 (19.3%)
紙ダイレクトメールハガキ	61 (14.2%)
マイナビ送付チラシ	47 (10.9%)
就職課からの情報	30 (7.0%)
友人、知人	39 (9.0%)
企業からのメール・ホームページ	19 (4.4%)
マイナビバナー広告	17 (3.9%)
就活準備フェア	12 (2.8%)
その他	4 (0.9%)
マイナビTV	6 (1.4%)



② 「本日のセミナーに参加された感想はいかがでしたか？」

学生からは「原子力に特化しているから良かった。」「業界単位の開催で、集中して企業をまわられた」「現場に近い人の話を聞けた」などセミナー満足度の高い意見が多く、「満足」「やや満足」と回答した学生が9割を超え、来場学生の満足度は非常に高かったものと考えられます。

選択項目	回答数(割合)
満足	157(64.1%)
やや満足	83 (33.9%)
多少満足	5(2%)
不満	0(0.0%)
不明	0(0.0%)
合計	245(100%)



回答理由・意見（アンケート記入欄から抜粋）：

東京会場

- ・原子力に特化しているから良かった。
- ・業界単位の開催で、集中して企業をまわられた。
- ・原子力の業界で業種別に話が聞けた。
- ・働いている方へ話を聞けた。女性技術者とお話できた。
- ・社員の方の話が参考になった。
- ・HPなどではわかりにくい事もわかりやすく説明していただいた。
- ・なかなか聞く機会のない企業の話を知ることができた。
- ・文系ですが、原子力業界について知ることができた。

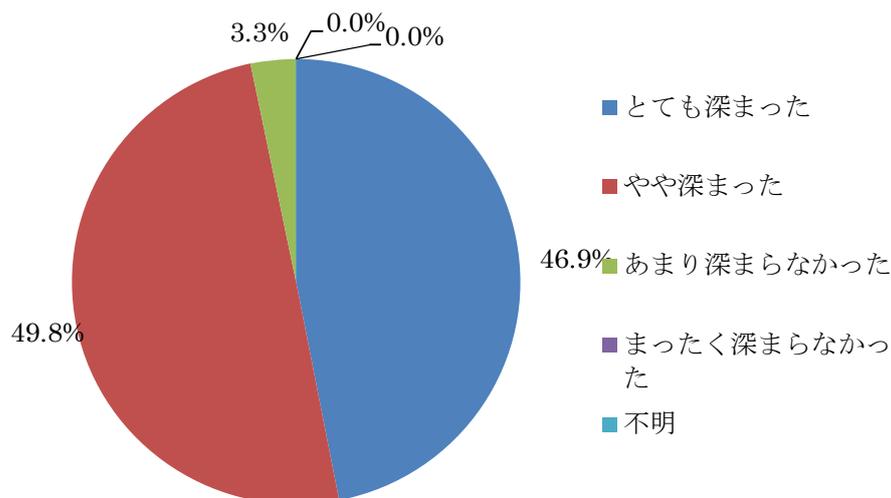
大阪会場

- ・原子力に特化しているから良かった。
- ・現場に近い人の話を聞けた。
- ・具体的な業務内容が聞けた。
- ・採用担当と直接話せた。
- ・担当者の研究内容を知れて親近感がわいた。
- ・複数の興味を持っていた企業の話を知ることができた。
- ・入社後のイメージがつかめたため。
- ・就職活動や進路を考えるいい機会になった。

③ 「セミナーに参加されたことで、原子力産業への理解は深まりましたか？」

学生からは「原子力の重要性がわかった」「多種の企業が様々な形で原子力産業に関わっていることがわかった」「原子力が多岐に利用されていることがわかった」などセミナーに参加したことで、理解が深まったという意見が多く、「とても深まった」「やや深まった満足」と回答した学生が9割を超え、本セミナーが学生の原子力産業への理解向上に非常に役立っていると考えられます。

選択項目	回答数(割合)
とても深まった	115(46.9%)
やや深まった	122(49.8%)
あまり深まらなかった	8(3.3%)
不満	0(0.0%)
不明	0(0.0%)
合計	245 (100%)



回答理由・意見（アンケート記入欄から抜粋）：

東京会場

- ・原子力の重要性がわかった。
- ・多種の企業が様々な形で原子力産業に関わっていることがわかった。
- ・原子力産業の幅の広さがわかった。
- ・どの企業が何をしているかわかった
- ・企業の立ち位置がつかめた。
- ・各企業の業界内での役割を知れた。
- ・具体的仕事内容を理解できた。
- ・新しい分野があることがわかった。
- ・少し内容が難しかったが、おおまかな内容は理解できた。
- ・丁寧な説明で専攻でなくてもわかりやすかった。
- ・知らない知識も学ぶことができた。
- ・いろいろな立場で産業利用が学べた。

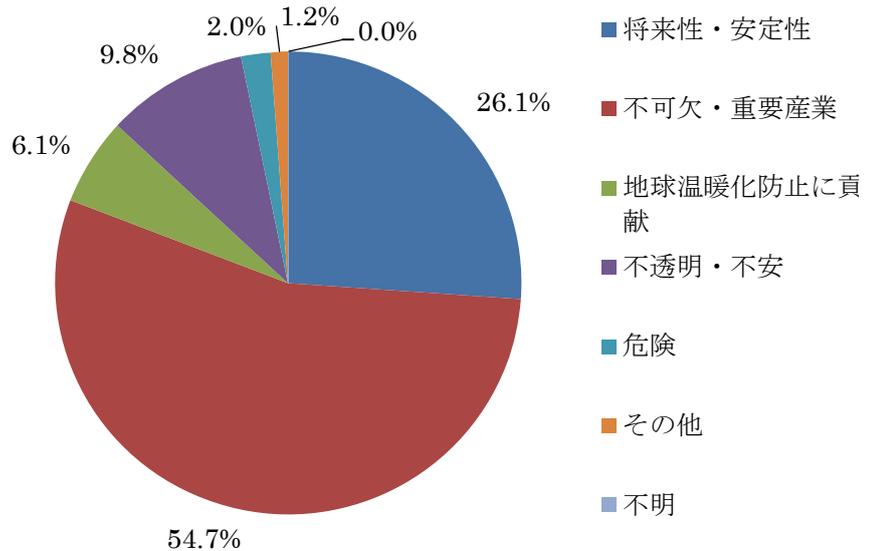
大阪会場

- ・原子力が多岐に利用されていることを知ることができた。
- ・原子力が社会を支えていることがよくわかった。
- ・ニュースで知ることのできない情報が得られた。
- ・今後の展望や戦略を知れた。
- ・企業以外の団体の取組がよくわかった。
- ・企業によって取組の違いがわかった。
- ・プラント業務の一通りの企業の説明を聞いた。

④ 「原子力産業に対して、どのようなイメージをお持ちですか？」

学生からは「現在の世界のエネルギーをまかなうには原子力は不可欠」「温暖化、電力需要の双方の点から発電方法の一つとして不可欠」「24時間安定しているから」「二酸化炭素をださないから」など原子力産業に対して肯定的な意見が多く、「将来性・安定性」、「不可欠・重要産業」、「地球温暖化防止に貢献」のプラスイメージで回答した学生が87%であり、「不透明・不安」、「危険」のマイナスイメージで回答した学生の13%を遥かに上回っています。来場した学生は、原子力産業に肯定的なことがわかります。

選択項目	回答数(割合)
将来性・安定性	64(26.1%)
不可欠・重要産業	134(54.7%)
地球温暖化防止に貢献	15(6.1%)
不透明・不安	24(9.8%)
危険	5(2.0%)
その他	3(1.2%)
不明	0(0.0%)
合計	245(100%)



回答理由・意見（アンケート記入欄から抜粋）：

東京会場

- ・現在の世界のエネルギーをまかなうには原子力は不可欠。
- ・未来がある限り、エネルギー問題は必ずあるため。
- ・これからの重要なエネルギー資源。
- ・24時間安定しているから。
- ・二酸化炭素をださないから。
- ・不安はありますが、日本は資源が乏しいので。
- ・重要なものではあるが、一方で不安を感じる人も多いため、今後の動向が不安。
- ・事故後の見通しが不安。
- ・まだわからないごみ処理など気になる。
- ・電力だけでなく、医療への応用もあるから。
- ・縮小していくにしても、事業は続くから。
- ・政治に左右される。

大阪会場

- ・温暖化、電力需要の双方の点から発電方法の一つとして不可欠。
- ・安価で多くのエネルギーを生み出し、環境にも配慮されているから。
- ・エネルギー資源の乏しい日本には必要。
- ・日本のエネルギー事情を考えるとなくなるならない。
- ・リスクにみあう価値がある。
- ・ベース電源及びエネルギーミックスは国益に重要。
- ・増加する人口とエネルギー需要には不可欠。
- ・エネルギー源の分散に有効。
- ・日本の電力を支える重要なもの。

⑤ 「原子力産業セミナー2016 に対するご意見・ご感想があればお聞かせください。」

多くの学生が、本セミナーは就職活動・業界研究に役立つという内容の意見を書いています。また、通常の合同説明会よりはるかに有意義だったとの意見も頂きました。本セミナーが、原子力理解促進活動の一助を担うとともに学生へ具体的な業務情報を提供し、それまで抽象的だった仕事のイメージを具体化させ、学生が原子力産業において就職活動を進める上で、手助けすることができたと考えます。

(アンケート記入欄から抜粋)

東京会場

- ・メーカーや電力など、多くの事業を行っている会社の説明会は全体をさらうだけの印象があるが、今日のセミナーは原子力に絞った説明だったので良かった。
- ・完全に専門外でしたが、それでも受け入れてくださる企業様が多く、新たな視点で社会を見ることができました。
- ・今後の考え方に大きく影響される1日となりました。
- ・私の研究が除染に関するものなので、それに関してもっと知りたいです。
- ・わからないことが多く、不安でしたが、主催者の方が声をかけてくださり、原子力産業についてわかりやすく教えていただきました。感謝しています。
- ・専門分野ごとの説明があると、説明が聞きやすいと感じた。
- ・今後もこのようなセミナーがあれば参加したい。
- ・またこういうセミナーを開いてほしい。
- ・もっと早い時期から開催してほしい。東京、大阪だけでなく、地方でも開催してくれると嬉しい。
- ・北海道もしくは東北で開催してほしい。
- ・休憩スペースは社員の人と話せてよかった。もっとスペースがほしかった。
- ・たくさんの企業がいてとてもよかったが、説明時間がばらばらであったため、待ち時間が多かった。
- ・各社のタイムスケジュールを統一するか、事前にWEBで公開してほしい。
- ・説明開始時間を統一してほしい。また、ブースの狭さも気になった。

大阪会場

- ・各企業担当者がきさくに話しかけてくれ、通常の合同説明会よりもはるかに有意義だった。
- ・原子力に的を絞りつつ、幅広く企業や業界を知れて非常に役立った。
- ・原子力に特化していてよかった。
- ・原子力の必要性を再認識しました。ありがとうございました。
- ・原子力に特化していて、とても効率的だった。
- ・サポートが多く、よかった。参加人数が少なく、話をじっくり聞けた。
- ・説明時間を統一すると、もっとまわりやすかった。全体としては非常に満足しています。
- ・非常に有意義な時間を過ごせました。
- ・ハガキ、サイト共に大阪駅のバス停の位置を載せるべき。参加票をサイトで印刷できるほうが良かった。
- ・九州で開催して欲しい。

添付資料2. メディアにおける掲載実績

-	掲載日	媒体	タイトル、見出し等
1	3月18日(水)	フジサンケイ ビジネスアイ	就活生向け原子力産業セミナー開催
2	3月19日(木)	電気新聞	「将来、中心で業界支え」原産協会 都内で学生向け説明会
3	3月19日(木)	日経産業新聞	「原発 重電も再始動」廃炉・再稼動 人材確保に動く
4	3月24日(火)	電気新聞	「来春見据え質疑活発」原産協会、開原懇 大阪で就活生向け説明会
5	3月27日(金)	週刊金曜日(週刊誌)	世界的に縮小傾向の原子力市場「人材確保に血眼の原子力業界」(今週のトピックの金曜アンテナの欄で掲載)
6	4月3日(金)	県民福井新聞	原子力人材確保「廃炉の時代 担い手育成を」(“論説”のコラムとして掲載。服部理事長コメントも掲載。)
7	4月10日(金)	暮らしと環境・エネルギー紙「燦(サン)」(タブロイド紙)	「原子力産業セミナー」開催 安全性向上と技術の発展へ 明日を担う原子力人材に期待 大震災の後に入学 意識に変化の兆し 文系含め多くの分野から人材必要
8	4月13日(月)	日本経済新聞	廃炉時代に向き合う「原発おくり人の悩み」(“経営の視点”のコラムとして掲載。服部理事長コメントも掲載。)

以上